

わたし達と新しい生活様式 ～情報交換&個別相談会～

今回の研修を行うきっかけは、「新型コロナウイルスの影響で仕事と生活のバランスを自分で上手に調整することが難しい」、「コロナ禍で生じた悩みや不安が先立つ一方で元々抱えている課題も放っておけない」という当センター登録者の皆さんから寄せられた声です。新しい生活様式が浸透しつつありますが、未だウイルスは身近に脅威を感じる存在です。そのような今だからこそ、同じ境遇にある方々との情報交換や職場以外での学びの場を通じて、日々の業務に前向きに取り組んでいただきたいと思い、企画しました。



当日は、多様な年代や勤務年数の登録者の方々だけでなく、研修参加者の現状を知ることでご本人や日々の支援に活かしていただくため、関係機関である特別支援学校や就労移行支援事業所、相談支援事業所などにもお声掛けし、合わせて28名の方々に参加していただきました。

前半は、新しい生活様式と仕事についてのお話です。現在は新型コロナウイルスに関する情報に限らず、様々な情報が溢れかえっている状況です。そのような中、情報に振り回されたり、不安に押しつぶされないように、誰かに相談したり周囲の知恵を借りることも必要です。誰かに決められたことに従うのではなく、“自分なりに納得して行動することが大事”であり、これは“仕事でも同じ”ことが言えると考えます。同じ情報であっても、その時の状況で優先順位や結論は変わります。また、人それぞれの判断や考え方も異なります。自分の判断だけではなく、他者の考え方を聞くことが出来るからこそ、自分なりの気づき・答えが生まれるかもしれないことを会場内で共有しながら、研修は進んでいきました。



後半は、関係機関の方々も加わったグループワーク形式での情報交換です。自己紹介を含んだ話題から新型コロナウイルスによる身の回りでの変化やストレスに感じる事等について、活発に話し合いが行われました。思わぬ共通点から初対面同士でも笑顔が生まれる一方、話題が同じでもそれぞれ思っていることや感じ方が違うことに驚きの声が聞かれました。参加者からは「自分と向き合うきっかけになった」「違う会社で障がい者雇用されている人と話せて良かった」「仲間がいると心強い」と感想が寄せられました。

参加された関係機関の方からは「今日の参加者の生の声を、今まさに就職を目指している人達とその支援者、企業の方にも聞いてほしい」と貴重なご意見をいただき、今後もわたし達の地域において障がい者雇用や理解の輪、横のつながりが広がっていくことへの期待が高まる研修でした。

今後も登録者の方や雇用先企業、支援機関のニーズに応えられる企画になるよう努めながら、コロナ禍や多様な働き方でも参加しやすい形態の定着支援研修を模索していきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いいたします。

当日は検温や手指消毒、飛沫防止パネル等の新型コロナウイルス感染予防対策を行いました。
参加者の皆さんには、ご協力をいただき、ありがとうございました。